

こひつじ

2025年夏号

566号

2025年8月5日

カトリック香里教会

宣教委員会発行

巻頭言
神のことばが宿る雲

カトリック香里教会主任
司祭 林和則神父



紺青の夏空にもくもくと盛り上がる夏雲の雄大さには、いつも圧倒されます。天頂に向かって伸び上がって行くような幅と高さ、奥行きを有する雲塊を見ていると、何か

大きなものに包み込まれるような感覚に捉われてしまいます。

連想するのはバチカンのシステリーナ礼拝堂の天地創造を描いた天井壁画の中で、天空を縦横無尽に飛び回っている神の雄渾な姿です。けれどもさすがのシステリーナ礼拝堂の天井といえども、大空のキャンバスには遠く及びません。山嶺のごとき雲塊を見ていると、私の心に「神の霊が宿る雲」というようなことが沸き起こってきます。さらに雲の中から音化さ

れないものすごい響きが伝わってくるような感覚に捉われます。そして心の中に詩編のことばが沸き上がって来ます。「天は神の栄光を語り、大空はみ手のわざを告げる。」

日は日にことばを語り継ぎ、夜は夜に知識を伝える。ことばでもなく、話でもなく、その声も聞こえないが、その響きは地をおおい、その知らせは世界に及ぶ」

（詩編19…翻訳は典礼聖歌147のものを使用しています）

私は旧約の預言者たちが神のことばを「聴く」というのは、このような感覚ではなかったのかと思えるのです。圧倒的な神のことばに体も魂も根こそぎもぎ取られ、包み

こまれるような感覚です。

全世界は、神のことばに満ちている、夏雲を見ていると、それが実感できます。



目次

林神父巻頭言-----	1	地区集会の紹介（A）-----	8
新評議会の紹介-----	2	子どもとともに捧げるミサ-----	10
四旬節黙想会-----	4	初聖体-----	11
聖週間-----	4	各種委員会だより-----	13
復活祭-----	7	北地区養成講座開催-----	14
地区集会の紹介（F）-----	7	お知らせ・編集後記-----	14

新評議会の紹介

議長 Sさん

新三役・評議会議長にご指名頂きました、Sです。

私は12年前にA地区長に選出され、そこから三役・書記となり評議会委員となるのは財務委員長含めて3度目となります。

議長という大役、自分に務まるかどうか不安を感じる前に、同じく三役に選出されたYさん、NUさんの存在があった為、林神父様からのご指名を二つ返事で快諾しました。

議長はエライ!と思う、微力ながら皆さまのお役に立てるよう、そして教会が活性化するように

努めてまいります。

2年間よろしく願います。

副議長 Yさん

副議長という役割も私に何ができるかもよくわからないまま走り出しました。

評議会運営のコーヒーサービスは月1回程度の開催ですが美味しいお茶とお菓子でほっと一息つける場を提供出来ればと思っています。

2年間転ばないように頑張りますのでよろしくお願いいたします。

書記 Uさん

香里教会に転入して、早いもので二十二年が経ちました。子育てがひと段落したちょうど良い節目のタイミングで三役のお話をいただき、不安もありましたが、これも良い機会と受け止め、お引き受けしました。

林神父様の「信仰を土台

にすべての活動を行いましょう」というお言葉を

常に心に留めながら、皆

さまと心を合わせ、この2年間を歩んでいけたら

と思っています。

どうぞよろしく願います。

宣教委員長 Yさん

今期の委員及び委員長選出については最後までバタバタしましたが、何とか五名で活動を始めることができました。

本会の役割は一般の方々にキリストを知っていた

だくための活動の一環として、「主日ミサの受付」

「教区報などの配布」「飾

り窓の模様替え」「こひつ

じの定期発行」などがあり

ますが、特に今年度は今

まで活躍されたベテラン

の「こひつじ」クリエー

ターも退会され「こひ

つじ」の今後が危ぶまれ

ましたが、何とか微力な

がらも全員で盛り上げて

ゆこうということになり

ました。引き続き皆様方

& 奉仕Gの方々のご支

援・ご協力をよろしくお

願いたします。

典礼委員長 Hさん

この度、典礼委員長となったHです。まだまだ知

らないことが多く前委員

長に教えてもらいながら

少しずつ動き始めたところ

です。ミサには大切な

役割がいくつもあります

が、その前提は集まって

祈ることにあると思います。

「二人または三人がわ

たしの名によつて集まる

ところには、わたしもそ

の中にいるのである」(マ

タイ18章20節)。先

日、神父様から「この教

会は、ミサ前の私語が少

ないですね。」という嬉し

いお言葉を聞きました。

良いミサのためにみなさ

んと一緒に奉仕させてい

ただきたいと考えていま

す。宜しくおねがいしま

す。

信仰教育委員長 Sさん

この5月に、子どもととも

に捧げるミサが、香里

教会で久しぶりにありま

した。何年ぶりでしょう

か?日曜学校の子どもた

ち、プティリーダーの中

高生たちが、先唱、朗

読、奉納などの典礼奉仕

を担当しました。入祭や

拝領、閉祭の歌は、『歌の

花束』から選曲し子ども

と声を合わせて歌いまし

た。子どもたちが活躍

し、それを教会の皆さん

が見守る…文字通りの

「子どもとともに捧げる

ミサ」は、大きなお恵み

です。

重しあい、この香里教会に集うことができますように。信仰教育委員会、そのお手伝いができたら…と思っています。

社会活動委員長 Kさん
概要のみで紹介致しますことをご容赦ください。私がかつて委員長を務めておりました2015—2016年においては、2回の『こひつじ』投稿の他、2015年9月13日に香里教会で行われた北地区定例会にて「人権問題と哲学」の題で講演を行いました。参考文献の一つを渡辺順一「孤立社会ニッポンへの宗教の挑戦」（『関西大学哲学第30号』（2012年3月）所収）としており、光栄にもこの講演の最重要箇所にて2024年5月25日に行われました本田哲郎神父さんの講演の内容が含まれることと

なりました。その要旨は

シナピスニュースレター2024年7月号に掲載されています。委員長時に教会の皆様にお配りした数多の資料の中で『神からいただいたいのちを生かす！だれもがあらひのままに受け入れあうかわりをもとめて』（カトリック大阪大司教区セクシユアルハラスメント対応委員会2016年6月）は最も評価しております。2022年7月号にカトリック教会によるカナダ先住民虐待に対するローマ教皇の対応についての内容で、2022年10月号に経口中絶薬承認反対署名の真意を問う内容で、それぞれシナピスニュースレターに私の投稿が掲載されています。後者で考えを同じくする投稿者の栗田隆子さんは「信仰と抵抗——宗教の

内側から」（『シモーヌVol.7』（2022年12月）所収）で両方の内容を併せて論じられています。

2012年7月15日に香里教会で講演された李哲さんとは、2021年6月に在日留学生捏造スパイ事件の体験を出版された契機で再び知り合い、往時の当教会のことを素敵な印象をもって覚えておられることを伺っております。私は現在、長らく取り組んでいるパレスチナ解放のために幾らかの力を費やしています。シナピスの西口信幸さんのニュースレター記事は全てどなたでも一読の価値がありますが、最後に、私が最も支持するヤヒア・シンワル氏の「遺言」を紹介し挨拶を終わります。ここまでの資料にご興味のある方は遠慮なく気軽に私までお

声掛けください。

施設管理委員長 Mさん

今年度から、三人体制で施設管理に関わる各種活動の調整やコーディネートをさせていただく形となりました。

対象は、長期修繕計画から日々の施設の維持・手入れまで大小様々ですが、営繕や庭園管理などのうち小規模なものは、奉仕グループとしてご協力いただける方々にて随時活動していただいています。

施設管理委員会として、木村〇〇さん、北山〇〇さん、私の三人で、施設のメンテナンスや奉仕活動がスムーズかつ安全に行われるよう取り組みたいと考えています。どうぞよろしく願います。

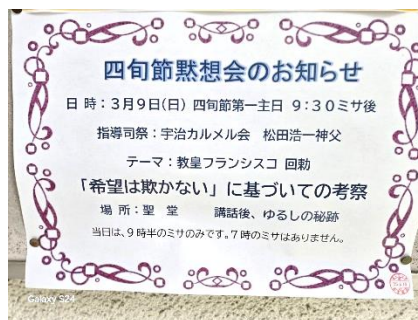
財務委員長 Oさん

前年度に引き続き財務委

員長をさせて頂くことになりました。よろしくお願い致します。

昨今、香里教会は信徒の高齢化が進み、又若い働き手となる信徒が教会に来ない等厳しい現状が続いています。信徒数が年々減少している中、教会の大切な財源である教会維持費、ミサ献金の収入も少しずつ厳しくなってきています。財務委員会として出来ることを一つ一つ大切に奉仕していかうと思います。

四旬節黙想会



今年の四旬節黙想会は3月9日(日) 9時半のミサ後に男子洗足カルメル修道会の宇治修道院より松田浩一神父様をお迎えして行われました。

テーマは、『希望は欺かない』に基づいての考察」です。

講話は次の3つの内容でお話されました。

① 2025年の通常聖年
広布の大勅書「希望は欺かない」の要約

② 聖年のための書簡

③ 四旬節のテーマ「希望の中を歩もう」



① 教皇フランシスコは聖年にむけて「希望は欺かない」という大勅書を発布されました。この言葉はローマ書5章1〜5節中において、「何者も神の愛から引き離すことは出来ないという確信」からきており、また神の愛に应えるためには人間に与えられた対神徳を養うように述べ、特に「忍耐の徳」を称賛されています。そして教会は常に「時のしるし」について吟味・解明する義務を課され

ているとし、具体的な「時のしるし」を8つ挙げられました。

それは①戦争と平和②未来へ向かう希望③生きる自由を持たない人にむかう希望④病人にとつての希望⑤若者にとつての希望⑥移民にとつての希望⑦高齢者にとつての希望⑧貧しい人の希望であり、次にカトリック教会

が希望する願いを2つ、それは(1)富裕国にむけての地上の財の公平な分配と世界的エコロジカルな責任の共有、債務帳消しへの希望(2)エキュメニズム運動への足掛かりとしてのニケア公会議1700年祭への希望です。以上が大勅書の要約です。

② 教皇フランシスコは、2月11日、新福音化推進評議会議長フィジケッタ大司教に宛てた聖年のため

の書簡を通し、聖年の開催

に向けた準備を促されました。主な内容は「希望の巡礼者」のテーマに至った

理由についてのお話であり、ここ数年のコロナ禍に

よりポスト・パンデミックの世界は私たちの生き方も変えられてしまった中で、「教会は与えられた希望の炎を燃やし続け、すべての人に開かれた精神、信頼する心、広い視野をもつて未来を見つめる力と確信を回復させるため全力を尽くさなければいけない」との思いから「希望の巡礼者」に至ったのです。

そして様々な準備が行われて、2025年の教皇四旬節メッセージが「希望の中を共に歩もう」のテーマとされました。

③ 教会の四旬節の典礼は、旧約の民の出エジプトの歩みと新約のキリストの死と復活へ向かう歩

みを重ねており、旧約の民は民族の奴隷解放と神の民の自由と責任にむかう希望の歩みですが、新約の民はイエスキリストによる人間の悪と罪からの解放とキリストによる神を信じる民の自由と責任にむかう希望の歩みです。そしてこの四旬節は清い心を持つため、曇りのない良心を持つため、偽りのない信仰を持つために神の聖なる秘跡に近づくように招かれています。この秘跡の力によって神の掟である愛徳をもって社会の時のしるしに希望を注ぐことにしましょう。

今年の聖週間は、4月13日の「枝の主日」から始

まると、4月22日の「復活の主日」で終わります。

この期間には、教会の歴史や神学、聖書の研究など、様々な学びの機会があります。

また、教会の行事や活動にも積極的に参加し、信仰の心を培いましょう。

今年の四旬節は、希望の歩みであり、神の愛の歩みです。共に歩み、共に信じていきましょう。

四旬節の歩みは、神の愛の歩みであり、希望の歩みです。共に歩み、共に信じていきましょう。

今年の四旬節は、希望の歩みであり、神の愛の歩みです。共に歩み、共に信じていきましょう。

聖週間

今年の聖週間は、4月13日の「枝の主日」から始

まり

・ 4月17日…聖木曜日

・ 4月18日…聖金曜日

・ 4月19日…復活徹夜祭

年間を通じて最も重要な
聖週間の林神父様のご説
教のポイントは以下の通
りです。

◎聖木曜日「主の晩餐の
夕べのミサ」



本日、聖木曜日の典礼
は「主の晩餐の夕べのミ
サ」です。いわゆる「最
後の晩餐」を記念いたし
ます。最後の晩餐を記述
している、本日の福音
「ヨハネによる福音13
章」は「イエスは、この
世から父のもとへ移る御
自分の時が来たことを悟

り、世にいる弟子たちを

愛して、この上なく愛し

抜かれた(1節)」で始ま

ります。「この上なく」は

英語で言えば「ベスト」

すなわち「最上の愛」で

す。至上の愛、最高の愛

なのです。イエスの最上

の愛が最後の晩餐の食卓

を包み込んでいたので

す。それが最後の晩餐の

記念である本日のミサに

おいても実現します。秘

跡であるミサを通して、

最後の晩餐が現代化し、

今、ここに実現します。

私たちは二千年前の最後

の晩餐の席に弟子たちと

共に同席することができ

るのです。それはまた、

ミサに与る私たちもイエ

スの最上の愛に包まれる

ということです。福音が

「イエスは世にいる『私

たち』を愛してこの上な

く『私たち』を愛し抜か

れた」となって、今日、

実現します。

そして、その最上の愛

が聖体に結晶化するので

す。よく言われるように

神は私たちを超越すると

共に同時に内在されま

す。それが聖体の秘跡に

よって実現します。聖体

を拝領することによつ

て、イエスの最上の愛が

私たちの中に来られて、

同時に私たちを超越し、

包み込んでくださるので

す。それが聖体の秘跡で

す。

最後の晩餐において制

定された「聖体の秘跡」

すなわち「ミサ」は、イ

エスが私たちのために残

してくださった「最上の

愛の秘跡」なのです。

◎聖金曜日「主の受難」



私たちはある意味、「十
字架」を見慣れてしまっ
ています。本日の「主の
受難」の典礼を通して私
たちは「十字架」がどれ
だけ恐ろしく、残酷でみ
じめなものであったかを
少しでも実感できるよう
に、みことばに耳を傾け
ましょう。なぜなら、そ
れが実感できればできる

ほど、十字架によって啓
示されたキリストの愛の
「すごさ」を実感できる
ようになるからです。

また、それによってこ
の世的な価値観を逆転で
きます。この世的な価値
観の基本にあるのは「弱
肉強食」です。強者が弱
者に勝ち、支配するとい
う弱肉強食の世界、それ
をイエスは最も弱い者に
なることによって、その
価値観をひっくり返し逆
転させたのです。弱者が
優先され、強者がへりく
だるという世界が開かれ
たのです。それによって
「神の国」が到来したの
です。

十字架の横棒はこの世
界です。弱肉強食の人類
の歴史です。その横棒、
弱肉強食の世界に、キリ
ストが示された福音的価
値観、「天」から下ってき

た縦棒が突き刺さり、そこに十字架が立ち上がるのです。それは私たちが福音的価値観をこの世界で生きようとする時、どうしても「十字架」が立ち現れて、それを担って生きるかどうかの選択が突きつけられることを表しています。

私たちが十字架を担って生きる、この世的な価値観ではなく福音の価値観、イエスの愛を生きたことができるように、改めて十字架を担われたキリストを見つめながら、その力を十字架のキリストに願い求めましょう

◎復活の主日「復活の聖なる徹夜祭」



復活は弟子たちにとつての神秘体験であって、歴史的に証明することはできません。けれども、間接的には証明することができます。それはイエスの十字架の死から二千年近く経った今も、世界中にキリストの教会が存在しているという「事実」です。「十字架の死」は当時のローマ世界にあつては最大の屈辱と敗北であつて、イエスは完全に歴史上から抹殺された

はずであつたのです。それがその後、「イエスは復活した」ことを信仰の起点とするキリスト教が世界中に広がつていき、現在に至っています。つまり「復活を信じる人びと」がいるということ

が、「復活」の間接的な証明になっているのです。その意味において、この日本、香里の地にあつて、キリストの復活を信じる人々の共同体がある、香里教会がある、それがこの香里の地にあつて、キリストの復活の「証明」になつています。私たちがこうやつて今夜、キリストの「復活」を祝うために集まつて香里教会の聖堂に集まつていることが、二千年前に「キリストの復活」があつたことを、香里の地にあつて「証し」して

いるのです。こうして「復活徹夜祭」の典礼を捧げることによつて、「キリストの復活」を「宣教」しているのです。

私たち一人ひとりがキリストの復活の証人なのです。二千年前のナザレのイエスという十字架でみじめに亡くなった男を、今だにこんな遠い東方の地にあつてキリストとして信じ、宣言する人々がいる、それが何よりもこの香里の地における「復活」の証明、「宣教」になつていくのです。私たちは、それをもっと強く自覚すべきです。私たち一人ひとりが洗礼を受けたということとは、私たち一人ひとりが生きていく場所において、「キリストの復活」の「証人」「宣教者」になつたということ



復活祭



◎ごミサの説教の要約
イエス様はまさに今日の朝、復活されました。

世界では戦争、自然破壊による気候変動、貧富による格差社会など先の見えない不安の中にあっても主の復活は成し遂げられ、その光はこの世界の中で輝いています。
福音書によるとマグダラのマリアとペトロ、イエ

ス様が愛されたもう1人の弟子は石が取りのけてある墓に行ったとあります。石とは生きている者の世界と、死んだ者の世界を隔てる「死」の象徴です。けれどもイエス様は人類の歴史で初めてこの死を打ち碎かれたのです。

しかしマグダラのマリア、ペトロ、もう1人の弟子も墓の中にイエス様を捜していました。これは三人がいまだに過去の「イエスの死」に捕らわれていたからです。

ただし、もう1人の弟子は墓の中にイエス様の遺体がないのを見て復活を信じたのです。
このもう1人の弟子は使徒ヨハネであるとされてきましたが、20世紀半端になってからは、ヨハネ福音書を読んでいる読者であるといわれるよう

になりました。私達も「読者」として、もう1人の弟子のところに自分を当てはめることで、自分が福音書の世界の中にいるかのような感覚になり、イエス様の復活を「体験」することができません。

復活によって永遠の命が示され、私達は私達の人生が死によって終わるのではなく、その後の世界があることを信じることでできるのです。

皆さん、復活の日の今日、改めて復活を信じているかどうか、自分に問いかけてみてください。それは単に二千年前にあった復活を信じるだけでは足りません。
復活のイエス様が今も生きていて、共におられ常に私達を導き守って下さっていることを信じるのです。ミサを通してイエ

ス様の存在が現在化し、ご聖体として目に見える形で私達の中に入ってきて下さり、イエス様の愛に包み込まれることによって、私たちはそのことを実感することができま

す。
*ミサ後のパーティでは心配していた雨も降ることなく、ガーデンパーティ形式で開催され、懐かしい顔の方々もたくさん来られ和やかなひと時を過ごすことができました。
神に感謝。



地区集会の紹介 F地区

5月18日F地区の「春の園遊会」と称して教会の庭で20数名の参加者で親睦会が開催されました。始めの祈りに替えて詩篇145を全文皆で味わいながら読み歌の花束よりマリア様の月ということで、「マリア様の心」を歌いました。
用意してくださったサンドウィッチ、コーヒー、お菓子を頂きながら、自己紹介をかねてそれぞれが聖書の中で好きな箇所をお話になり、特に愛についての箇所だったり、詩篇が好きだと仰る方もいらっしゃいま

した。又香里教会に来られた経緯、受洗までのエピソードなど楽しいお話が披露されました。一通り終わったところで、遅れて来られた神父様がサンドウィチを召し上がっていらつしやる間、BGMで「ガリラヤの風かおる丘で」を皆で歌い、最後に神父様にお祈り、祝福をしていただき木漏れ日の中、穏やかな雰囲気 に包まれて終わることができました。神に感謝

K
M



地区集会の紹介

A 地区

6月29日A地区の「水無月会」が行なわれました。A地区は神父様やシスター方がおられることもあり28名という多数の参加者があって喜ばしいことでした。始めに主のお祈りを唱えてから水無月の意味についてお話が飛び交いました。神の視線で見た水のない月という意味や、また水無月は（みずのつき）と読み田んぼに水を引く月、など諸説ありました。私達係がサンドウィッチ、パン、お茶、暑いのでスイカ、パイナップルを用意し、手作りのシソジュースや水ようかんを提供し

て下さる方がおられ、感謝しながら美味しく頂きました。シソジュースで乾杯した後、皆様の自己紹介が始まり、ある方が20年後の香里教会はどうなっているのだろう、信者さんの人数は？と心配され話された後、シスターがせっかく幼稚園と一緒になっている教会なのだから神様と供に愛をもって保護者の皆様と交わりが深まれば教会の存続につながるのではないかなどお話されました。普段聞けないシスターの今までの経歴や皆様のユニークな自己紹介、初聖体の子供さんや老若男女いろいろなお話が聞けて、とても良い時間でした。夏の思い出、ごろんよ空の鳥を歌って最後にシスターがこの楽しい集いが次回も続きますようにお祈りして頂き、暑い



日でしたが、涼しいお部屋で楽しいひと時を過ごすことが出来ました。神に感謝。

KN



久しぶりの
子どもとともに捧げ
るミサ 実施！



コロナ禍以前には行われていた「子供とともに捧げるミサ」が5月18日（日）9時半のミサにおいて数年ぶりに始まりました。

冒頭、林神父様より一言「このごミサは、大人が子どもたちのためにやってあげているミサではありません。また、子どもたちのミサでもありません。」「子どもとともに捧げるミサ」であり、子どもたちも共同体の一員であ

ることを大人たちが認めて、子どもたちを中心に、大人たちはへりくだって与かることが求められます。」

ごミサの典礼奉仕は先唱、第一朗読、答唱詩編、第二朗読、いずれも子どもたちが活躍します。典礼聖歌も一部は「歌の花束」に替えられ、伴奏もオルガンだけでなく、若者たちのギター伴奏が加わりました。



林神父様の説教は「ヨハネによる福音書13章31〜35節」の最後の晩さんの場面のお話で、説教台から降りて子どもたちも座っている席に近づ

かれて、子どもたちに向けて、わかりやすく説教をされました。

「イエス様は弟子たちに新しい掟を授けられました。それは互いに愛し合いなさい、という掟です。旧約の時代から愛の掟はありましたが、それは隣人を自分のように愛しなさいという掟です。が、新しい掟はイエス様のように愛し合いなさいという掟です。」

そして晩さんの前に弟子たちの足を洗われたのです。当時他人の足を洗うことは奴隷の仕事でした。それをイエス様はユダをも含めて行われたのです。ユダが自分を裏切ることをわかっていながら彼の足を洗われたのです。普通なら嫌いになつて足など洗わない、でもイエス様は彼を愛して

足を洗われたのです。私たちも嫌いな人であっても愛する努力を行うことが大切です。そしてあきらめるのではなく、少しでも関わり合う、そんな努力をして行きましょう！」

ちなみに本ミサは今後毎月第3日曜日の9時半からのごミサで行われる予定です。





また、7月20日の子どもとともに捧げるミサでは、林神父様がホワイボードに説教の内容をわかりやすく説明するためのイラストを描かれました。

初聖体



初聖体、おめでとうございます。

ミカエル Kくん
ルカ Oくん
小さき花のテレジア Sちゃん

初聖体の感想を伺いました。

①初めてご聖体を食べた瞬間思ったことは？
②神父様のお話で心に残っていることは？

③どんな気持ち？

④初聖体の感想

◎ミカエル Kくん

①ふつうのパンとちがってすーっととける。

②虫がすきなのでアリの話がでてきてうれしかったです♪

③がんばった。

④なし。

◎ルカ Oくん

①固かったと思った。

②紙芝居の中で。神様を信じれば海の上を歩ける話し。

③勉強から最後まで楽しかった。

④勉強のことなど、リーダーや、神父様に変な世話になりました。

ありがとうございます。

◎小さき花のテレジア Sちゃん

①「なんだか心がすーっとらくになった。」と思いました。

②えー、わかんない！

③「うれしい」と言う気持ちです。

④はつせいたいのはじまるまえに「どれす」をきれてうれしかったです。

はじめてパンが食べられてうれしかったです。パンは、なんにもあじがしませんでした。イエスマがよろこびそうなきもちでいたいです。

◎保護者より

小さい頃から、親や兄たちのご聖体を欲しがって「おくちあけて見せて！」「ひとくちだけでいいからちょうだい！」とねだっていたS。初聖体のこの日を、ずっと心待ちにできました。

神父様の勉強会がとても楽しくわかりやすくて、神様に愛されていることを改めて感じたようです。イエス様のことを描いた紙芝居で、ペトロが



湖の上を歩いたエピソードを聞いた日には、お風呂で「かみさまを信じているから、わたしも水の上を歩けるかな？」と練習していました(笑) まっすぐ純粋な気持ちで初聖体を受ける姿に、親のほうで、自分の信仰を見直す時間となりました。

ご指導いただいた神父様、リーダー、Tリーダー、信徒の皆様、ありがとうございました。



お祝いの様子

各種委員会活動だより

〈施設管理委員会の 巻〉

宣教委員会 Y

施設管理委員会の呼びかけにより、6月1日
9時半ミサ後に教会内樹木の剪定作業が行われました。

具体的な作業内容は

①サツキの剪定

②剪定した枝葉の清掃
で作業場所は信徒館前の植樹帯及び納骨堂前の植樹帯でした。

参加者は各々刈り込みば

さみやほうき、塵取りなどを手慣れた手つきで扱い、時折世間話に花を咲かせながらも約一時間にわたって作業を行いました。サツキの花期が終わったこの時期に剪定作業を行うことで、来年また多くのサツキの開花が楽しみです。



さいごに剪定作業にご協力いただいた奉仕グループはじめ有志の皆様、大変お疲れ様でした。

なお施設管理委員会では別の奉仕グループによる教会内の心安らぐ花や緑の自然の維持管理活動なども実施されています。



北地区養成講座開催

北地区香里担当

T

6月14日(土) 今市教会において「シノドス」日常の中で信仰を生きるヒント」と題し、教区生涯養成チーム応援も得て、北地区養成講座が開催され、約80人が参加しました。講座は、

1. ヌノ神父(新福音化委員会シノドス担当)によるシノドスの説明
2. 田村シスター(和歌山紀北)による霊における対話(私、あなた、私たちの3ステップによる

わかちあい)の説明

3. ファシリテーターとして梅崎神父(枚方教会)と長崎神父(今市教会)も加わり、8グループに分かれてのわかちあい
4. 共同祈願形式によるグループ発表
5. 質疑応答まとめと進みました。

シノドスはもとと「教会会議」と訳されてきました。フランシスコ前教皇は、ギリシア語の語源(シンともに、ドス道)から「ともに歩む教会」を強調され、聖職者に限らず全世界の信徒から広く意見を募られました

た。大阪教区(当時)からは330件のアンケート回答が集まったそうです。それらの意見に基づいて2021年10月から2024年10月にかけてバチカンで会議が行われ、これをまとめたものがまもなく日本語を含め各国語に翻訳されるそうです。

養成チームでは、シノドスに関する次の講座を計画中です。お楽しみに。

お知らせ

平和旬間のお知らせです。

平和旬間2025 大阪

高松大司教区

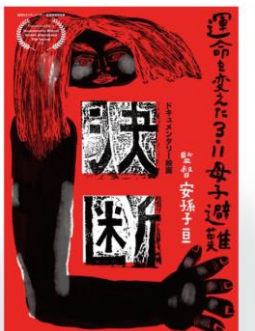
テーマ

希望と平和の巡礼者となろう

「苦しむ人、悲しむ人とともに歩む道」

香里教会では、ドキュメンタリー映画「決断」を上映します。

8月10日(日) 聖堂にて
9時半〜 平和祈願ミサ
11時半〜 開演



編集後記

新年度に変わり新しい委員での「こひつじ」編集後記の一回目担当を仰せつかったYです。

本号の新評議会役員紹介の欄でも記載しましたように、宣教委員会ではベテランのこひつじクリエーターが退会され発行にあたっては不安の幕開けとなりましたが。全員の協力で何とか発行までこぎつけることができました。

前号発行から約半年経過しましたので、今回は若干ページ数も増加しています。慣れない点も多く解りにくい記事もあるでしょうが、今後徐々にでも改善していきたいと考えておりまので、ご期待ください。

引き続きご支援ご協力をお願いいたします。

神に感謝